



第31回

会員交流懇親会



4月9日(日)、恒例の第31回会員交流懇親会が行われ80人ほどが参加し旧交を温めた。

懇親会は正午から行われ、先月亡くなった県人会顧問「故・田口信二」氏や先亡者へ黙祷を捧げ、千田会長より年度の活動状況や予定が発表され、高橋昭二郎監査役の音頭で乾杯。

昼食会は会員持ち寄り料理に、飲物、刺身、果物などを県人会が提供。また、いつものように金宝丸からの蟹(カニ)や蟹汁が食卓を飾った。

当日は、杓田美代子ブラジル日本文化協会副会長や伊東大分県人会理事の飛び入りもあった。

誕生日会はケーキを囲み、1月から4月生まれ全員に会から心づくしの祝いの品が贈られ健康を祝った。

青年部(多田マウロ部長)によりビンゴが行こなわれ、出た数字に歓声がり、飛入りのお二人には景品が当たったこともあり大喜び。

ビンゴの後、のど自慢のカラオケがあり午後3時すぎ散会。若い人々は遅くまで楽しんでた。

掲示板

お知らせ

■ いわて餅まつり

6月11日(日)午前11時より恒例の第17回餅まつりが行われます。

例年通り、白餅(お持ち帰り)、食べ放題はお雑煮にアノコ、大根おろし、ゴマ、納豆、キナコなどさまざまな味を用意しております。お手伝いをお願いします。

☆ 前売りを受付けます。申し込みは県人会へ。

■ 日本まつり

7月15日16日22日23日と第9回日本まつり(Festival do Japão)が、昨年と同様イミグランテ・展示場で土日・土日と2週間にわたり行われます。

「開かれた領事館」「親切な領事館」

在外選挙人登録

懇親会に先立ち、サンパウロ総領事館から、日系社会班担当の沖田豊穂領事、中村明人館員が来館し在外選挙人登録の受付を行った。当日は県人や一般にも呼びかけた事で18名が新規登録を行った。

これまでの在外選挙は、衆・参両院の比例代表(政党)に限られていたが、次回の選挙から衆参小選挙区や補選にも投票出来る法改革案が国会で承認された事もあり登録への関心が高まっている。領事館では団体などに出向き登録受付を行っている。

後日、沖田領事より短時間に多数の申請があり、所期の目的を十分に達成出来た。私どもは「開かれた領事館」「親切な領事館」をモットーに業務と取り組んでおり、なんなりとご相談下さいと礼状があった。

領事館への問い合わせ

電話 (11) 3254-0100 まで

留学生
研修生
募集

県人会では、2007年度留学生・研修生希望者を募っております。

申し込みは県人会へ

電話 (11) 3207-2383 まで

日本兵 63年ぶり帰郷



元日本兵が63年ぶりに祖国の土を踏み、生まれ故郷である岩手県に帰ってきた。洋野町(旧大野村)出身の上野(うわの)石之助さん(83歳)は、戦中陸軍兵士としてカラフトに出兵。

終戦後サハリンで行方不明となり、戦時死亡で2000年に戸籍を削除されが、上野さんは生存との報道を知り会報にも上野さんの生存記事を書いた記憶がある。

上野さんは長男のアナトリーさんと共に4月19日成田着、岩手県へ向かい県庁の知事室で肉親と再会、甥の幸夫さん宅に滞在。弟の丑太郎さん(81歳)、妹の下城ハナエさん(69歳)らと早速両親の墓参りをした。故郷では町挙げての歓迎会が開かれた。上野さんは親族にもてなしを受け「やはりお米と味噌汁が美味しい」と語ったと云う。

上野さんはウクライナ(旧ソビエト領)の女性と結婚、同胞との接触もなく60年余、日本語もほとんど忘れ取材に対し現地語に片言の日本語を交えて話していた。

短い滞日中に親族の親身なもてなしで日本語が少しずつ分かってきたと上野さんは云う。日本語を勉強したいと日本語の本を持ち帰った。上野さんは帰国を前に戸籍を回復する手続きをおこなった。上野さんは28日感激と思い出を胸に帰国した。

お元気で!

県人会の動き

(2006年4月)

- 5 及川さおりさんより会報受領のメール。
- 6 藤村副会長サントスの金宝丸訪問。
- ☆ 県連執行部会に会長出席。
- 7 サンパウロ新聞「灯台」欄に、留研生往来の季節と題し、帰国した留学生が昨年の日本まつりに関わった。今年は転勤のため手伝えない旨の手紙を紹介した。(記事参照：心がけを大切に)
- ☆ 田澤豊岩手医科大学名誉教授より会報受領と交歓の礼状受信。
- 8 世界旅行中の鈴木徹さんよりボリビア向け離伯の挨拶。また、鈴木さんの母親範子さんより会報受領と月末に久慈市へ里帰りのメール。
- 9 定例役員会 議題は東北ブロック運動会、餅まつり、県人会50周年などについて。
- ☆ 県人会で在外選挙人登録が行われ18人が登録。
- ☆ 第31回会員交流懇親・誕生会に約80名出席。
- 11 ニッパク印刷にて会長、畑氏にて会報139号の校正作業。
- 14 サンパウロ新聞に懇親会の写真入り記事。
- 18 沖田豊穂領事より、在外選挙人登録協力への礼状あり。
- ☆ 自閉症療養専門家、三枝たか子氏より会報やメールのお礼と、在ウルグアイ日系人について。
- 19 ニッケイ新聞に懇親会、選挙人登録の記事。
- 20 県連総会あり。役員改選で松尾治氏(福岡)が新会長に

- 選出される。千田会長出席。
- ☆ 会報139号を国内外へ407通発送。役員会動会の案内状など折り込み。
- 21 サンパウロ新聞に県人会図書館の記事、身近な所で読書が出来る、県人以外も利用と。
- ☆ 関係者に新聞記事配信。
- 22 世界一周中の鈴木君はボリビア国ラパスから、岩崎雄亮ニューヨーク県人会長、奥州市の及川さおりさん、杉村新氏などからメール受信。
- 24 清水泰宏氏(盛岡)よりメール受信。
- 26 東北ブロック運動会準備委員会に多田副会長夫妻、昆野会計、岩上エリカさんが出席。
- 27 広報金ヶ崎4月号受領。
- 28 新花巻市の副市長に任命された、佐々木務氏、高橋公男氏より拜命の挨拶状受領。
- ☆ 昨年来館した岡崎務氏より「体験取材・世界の国々-6」ブラジル編(文・写真岡崎氏)グラビア集の送付あり。



寄付・寄贈

- ☆ 佐々木 憲輔 様 ————— お茶菓子
- ☆ 岡崎 務 様 ————— 図書(写真集)
- ☆ 森 茂四 様(金宝丸) — 丸ズワイ蟹

会費納入者名 (4月納入)

工藤五三郎、前川鮎之助、阿部安武、武田つる子、虎岩昭子、岩上至カルロス、山口えつこ、玉木シモネ、北村達夫、矢島みどり、星正人、二瓶隆一(賛助)、佐藤幸夫、崎田チトセ(05・06年度)、崎田良平(05・06年度)、(累計121名)

心がけを大切に

4月7日付、サンパウロ新聞「灯台」欄に留研生の季節と題し、次のような記事が載っていた。

3月から4月にかけて、日系人の留学生・研修生が往来する。年間80名程が勉強に行くが言葉の面で遊学とも云える。しかし、その成果は大きい。

帰国後は、どの県人会役員たちも日本語の上達に舌をまく。また、彼らは「もう一度日本に行きたい」と口を揃える。日本を好きになって帰って来てくれる。帰国後は留研生会や県人会など様々な団体が協力する。

日本や日系コロンビアとの距離を縮めた彼らを生かすも殺すも団体の対応次第で、彼らの新しい発想や意欲を育てようとする、おおらかな姿勢がないために離れて行った人達がいかに多いことか。

だが、こんな例もある。帰国した青年が昨年の「日本まつり」に関わった。今年も手伝う事を約束して意欲を見せていたが、仕事先で地方への転勤が決まり、県連の中沢会長にお礼と

同祭を手伝えない事を手紙で伝えてきた。丁寧な日本語でしたためたその手紙を中沢会長は嬉しそうに見せてくれた。留学研修制度の大切さと帰国後の彼らを育てる一世の役割の大きさが如実に現れている。と書いてあった。

実はこの手紙、岩手県人会2003年度留学生で岩手大学工学部で環境衛生工学を学んだ、阿部貴司アイレス君からだった。私は心の中で思わず「アイレス君ありがとう」と叫んだのを覚えている。

帰国後、プリジストン・タイヤ工場に就職。県人会活動は勿論、留研生会、日本祭りなどに積極的に参加している。パイア州カマサリの新工場への転勤辞令を前にアイレス君は日本の本社へ研修に行った。

彼は日本で、忙しい研修の合間に岩手でお世話になった関係者へ挨拶に行っている。

岩手で学んだ先輩やこれからの留研生希望者もアイレス君のように「心がけを見習って欲しい」と願っている。(千田)



サンザ踊りに参加 - 中央手前がアイレス君

お 便 り 集

田澤 豊様より

(岩手医科大学名誉教授)

2月に貴会を訪れた際には、突然であったにもかかわらず、皆様お集まり下さり、親しくお話出来ました事を嬉しく存じております。

その事を県人会ニュース138号に写真入りで紹介して下さい、ありがとうございました。盛岡もようやく春めいてまいりました。皆様にはお元気でお過ごし下さいますようお願いしております。

鈴木 範子様より

(千葉県)

私は三味線を持って旅している鈴木徹の母です。この度は皆様に息子が大変お世話になりました。温かく徹を迎え入れて下さった事で、心身を休ませて頂く事と思いましたが、こちらでも心配していた家族や親戚も皆ほっと一安心しておりました。皆様の暖かいおもてなしに心から感謝致します。

2日前には県人会報を頂きました。義父は喜んで家に来る皆に写真や新聞を見せて孫に話をしております。徹の旅もまだまだ続くと思いますが、これからも未永くお付き合いをさせて頂けたらと思います。

ちなみに私は今月末に岩手(久慈市)に一週間程里帰りをしてきます。皆様お元気でお過ごし下さい。

(徹さんは4月10日からボリビア向け出発との連絡とお礼あり、必ずまた来ますと)

川村 央隆様より

(県国際交流協会)

ニッケイ新聞記事をお送り頂き誠にありがとうございます。度々記事にして頂き恐縮しております。

当協会では、引続き日系人の方々への支援や海外県人会との連携を進めて参りますので、今後ともご指導・ご協力を賜りますようお願い致します。

及川 さおりさんより

(水沢市)

会報届きました。ありがとうございます。読むと、岩手県会は人の動きがいつもあり活発さを感じます。移民一世である高齢者を大切にすることが一番素晴らしいと私は思っています。

実際、その方々も減る一方ですが、その方々のお蔭で今の日系社会があることを次代へ伝えたいものですね。岩手は温かいですよ。心の中に暖かさを持っているような気がします。また、旅行中の鈴木さんのような旅人も気軽に立ち寄れる、ブラジル県会もいいですよ。

三枝 たか子様より

(自閉症療指指導者)

帰国し新しいパソコンを求めましたところ、会長様からのメールを受信しており、県人会ニュースレターも送付頂きお礼申し上げます。

ご質問の件、ウルグアイには日系人約70家族が在住していますが、岩手県出身者は居ないとのことでした。私の父(亡)は、千田正知事の秘書をした事もありました。会長様は知事と縁故関係があるのでしょうか。お尋ね致します。

会長様とお会い出来た事は縁と思い、私で何か出来る事がありましたらお知らせ下さい。

小田島 栄様より

(県国際交流協会理事長)

県人会ニュースありがとうございます。皆様の活動のご様子、楽しく拝見させて頂いております。

当方は、4月1日からアイーナに移転しましたがまだ日も浅く落ちつきませんが、これから、新しい施設をいかに県民の皆様に利用して頂くか、いろいろ工夫していかなければと考えております。

来日の際は、是非お立ち寄り頂きたいと思います。ご自愛専一の程。



県人パイオニアと研修生を訪ねる ビデオ収録の旅

7
最終回

バタテイロ王国といわれたカストロ

文 畑 勝喜 写真 藤村 光夫

前号で紹介したピライ・ド・スール在住の岩手県人は、渡伯してカストロに配耕され、ブラジル式バタタ(じゃがいも)栽培方法を体験し独立を果たしている。私達はこの旅の終点としてそのカストロを選んだ。同じ郡内ながらピライ・ド・スールからカストロまで凡そ30 km。なだらかな丘陵に、日本人がパラナ松と呼ぶ、学名アラウカーリアの松林が続きいかにも南パラナの高原らしい風景が続いている。やがて、パラナ河となりアルゼンチンのラプラタ河となる、その源流イアポー川をわたると、カストロである。

カストロは、かつてブラジル南部で独立戦争がおきた時、ここにブラジル政府軍の砦が築かれた事から、その名が付けられた。(因みにCastroとは古ローマ時代の城跡を意味する)そして、永い間この小さな町に軍隊が駐屯していた。

町の人口は凡そ6万人。主な産業はオランダ移民が運営しているカストロラングの乳製品を始め、この地で産出する石灰石と、それに関係した製品が輸出され、カストロの経済を支えている。

この地に日本人が入ったのは1958年。涼しい気候が馬鈴薯栽培に適しているとして、サンパウロ州のバタテイロたちが移って来たのが最初である。

私が初めてカストロを訪ねたのは、1970年頃だったと記憶している。当時カストロは既にバタタ生産の全盛時代で、2,000アルケール(4,840畝)の広大な農場で、馬鈴薯をはじめ、大豆や人参等を生産していたY農場から記録映画の製作を依頼された為であった。何しろ一枚の畑が40アルケール(968畝)という大きなもので科学肥料や農薬の散布には、農業用飛行機を使用するという大掛かりなものであった。(この時の映像は、今でもサンパウロの移民史料館のビデオで見ることが出来る)

この撮影行で連絡場所として利用させて頂いたのが、カストロの奨学舎であった。当時「南米最大の農業組合」といわれたコチア産業組合の組合員たちによって運営されていたこの奨学舎は、寄宿舎も兼ねた大きく立派な施設であった。

ここの舎監をしていたのが、岩手県人の田口信二氏で、奥さんのアサ子さんと共に日本語の先生として活躍し、男先生、女先生と呼ばれ生徒達に慕われていた。しかし、である、初対面でビックリしたのは、その純粋なブーズ一弁である。今の岩手県でも、これ程の正統派ブーズ一弁を話す人を探すのは難しいだろうと思われた。

「田口さん日本は何処ですか?」「岩手県の金ヶ崎です」この時ニコニコと会話を聞いていたアサ子さんが「私は一関です」「エッ!ボクの母も一関の山目という所です」「私のところは、一関から一寸入った小さな村で狐善



中央が田口信二、アサ子夫妻

寺というところなんです」連載4回目(137号)でも書いたが、その狐善寺こそ私の母が小学校の先生として勤めた所である。「母はそこで小学校の先生をしていたんです」「お母さんの名前は?」とアサ子さん。「相沢亮子と云います」「エッ!その先生なら私の家にも下宿して学校に通っていたのよ」私はまさかこの広いブラジルで、こんな形で母を知る人に逢えるとは思ってもみなかったのですっかり興奮してしまっただけであった。

戦後、母と訪ねた狐善寺で下宿をしていた家にも行ってみた。「この部屋に母さんが居たのよ、机やタンスの位置まで少しも変わっていない」と懐かしそうに見廻していたのを思い出していた。私は早速この事を日本の母に知らせたのは云うまでもない。これ以来、田口さんとの距離が、グッと近寄った気がしている。



奨学舎にて筆者と千葉和枝さん

今度の取材紀行で、かつての奨学舎を訪ねた。広い敷地に建った校舎はそのままだったが、コチア産業組合無き今、あるじは変わってキリスト教系学校が経営するとかで、塀も校舎も派手な色に塗り変えられ妙に落ち着いた風景になっていた。

現在、この奨学舎は当時教鞭をとっていた女性教師によって引き継がれ、近くの場合で、私塾の形で授業が続けられている。そして、敷地内に先生の住宅を建設中であっ

た。田口氏在任中コチア青年の活躍と共に栄華を極めた「カストロ奨学舎」が、規模は小さくとも、受け継がれている様子を見て嬉しく思った事であった。このカストロには最盛期10家族以上の岩手県人が在住していたのである。

無事、取材を終えサンパウロへの帰途、ピライ・ド・スール在住の千葉和枝さんから頂いた心のこもった弁当を、見晴らしの良いガソリン・スタンドの休憩コーナーで開いた。46年前、新聞社から派遣されて来ていた頃、地方の取材では、帰りにはその家の主婦が「帰る途中で食べて下さい」と、お弁当を持たせて呉れたのを思い出していた。今は道路事情も良くなり、国道添いに立派なレストランも出来、その様な心配も無くなったが、今回の様に長期に亘る取材行だと、どうしてもシュラスコ(ブラジル式焼き肉料理)が主となり、千葉さんの「おふくろの味」は本当に有難かった。

同行の藤村副会長は「私の任務は、畑さんを無事家まで届ける事」と安全運転に務め、運転中も私が退屈しない様にジョーク混じりの豊富な話題を提供してくれて、楽しい道中であった。

地方に住む、ごく普通の岩手県人との取材で、たくましく、明るく生きる人々と触れ合う事が出来た。取材に快く協力して頂いた方々、そして経済的にも大きな負担のかかる取材行プランを認めて頂いた県人会長や役員会の皆様方にも厚く感謝を申し上げ、稿了としたい。

☆ 畑さん、長期映像取材と7回にわたる取材紀行文ありがとうございました。ご苦労さまでした。心より御礼申し上げます。畑氏には昨年中県人会企画の様々な映像取材を頂きました。作品の早期完成を祈ります。(編集子)

サンパウロ市内で49日の法要が行なわれた5月7日、夜7時からカストロ市中央の大寺院でカトリック教による追悼ミサがしめやかに執り行われ多数の卒業生やカストロ在住時代に親交のあった友人、知人が集い祈りが捧げられた。
田口信二氏の御冥福を祈ります。



石割さくら・今年も満開

石割桜ウオッチング

巨大な石の割れ目から樹齢約400年の老木が、絵のよう
に花開く全国でも珍しい桜の木です。

盛岡地方裁判所の前庭にある周囲21mの花崗岩。その割
れ目を木として、見事な枝ぶりを見せる1本のエドヒガ
ン。薄桃色の花が満開になると盛岡にも本格的な春を告げ
ます。

かつてこの場所には南部藩家老の屋敷があり、庭石の割
れ目に種子が飛んできて育ち、成長に伴って次第にこの石
の割れ目を押し広げてきたという。

幹の周囲4,6m、樹高10,6m、枝の張りは17mという
立派な大木で、国の天然記念物に指定されている。